

日本社会開発基金

成果報告

25周年記念版

コミュニティの 対話を促進する

ソロモン諸島:コミュニティ利益共有パイロット・プロジェクト

2018年-2023年 | 280万ドルのグラント

2017年にソロモン諸島で最初の大規模再生可能エネルギー・プロジェクトである「ティナ川水力発電開発プロジェクト」が開始された際、電力コストは高く、送電網への接続性は低く、電力生産の99%をディーゼル発電が占めていました。このプロジェクトは、首都ホニアラから南東に30キロメートル、ティナ川の支流に位置する慣習地に、ダム、トンネル、発電所、送電線を建設しようとするものでした。その目標は、生産の多様化によって電力コストを削減し、供給の信頼性を向上させることでした。

同プロジェクトでは、同様の大規模プロジェクトの経験(とりわけ複雑な土地保有部族のルールがある地域での経験)から学び、土地所有者や影響を受けるコミュニティが確実に参加し、利益を共有できるようにするため、事前に状況を説明し、相手の同意を得たうえで、自由意思に基づく広範な協議プロセスを実施しました。日本社会開発基金(JSDF)が拠出し、世界銀行が管理する「コミュニティ利益共有パイロット・プロジェクト」が、2018年に開始されました。プロジェクトは、コミュニティ利益共有メカニズムを実現するための適切な環境、制度上の取り決め、運用手順を確立し、水力発電所の運営による収益が、インフラ建設のために土地が使用されたコミュニティ内で公平に共有されるようにすることを目的としています。



コミュニティのニーズを最優先にしたコミュニティ利益共有パイロットプロジェクトは、コミュニティ利益共有メカニズムの制度上の取り決めと運用手順の開発に成功し、2023年にバホメア・マランゴ・コミュニティ利益共有信託組合を設立しました。また、非金銭的開発利益を通じて収益の一部をホスト・コミュニティに再分配することを任務とするコミュニティ利益共有基金の暫定運営組織も設立されました。

プロジェクトでは、新たに16の太陽光発電による給水システムを設置し、既存の2つのシステムを改善しました。これらの投資は、ほとんどの家庭で消費する水を汲むことに責任を負う女性と子どものために行われ、4,360人の水へのアクセスを改善し、最も近い水源までの距離を短縮することに貢献しました。

また、プロジェクトではソロモン・パワー社と協力のうえ、2023年4月に初めてコミュニティを送電網に接続しました。当初の計画を超え、送電網は現在141世帯に接続され、776人の農村住民が家庭用照明に常時アクセスできるようになり、作業道具や家電製品を使用して、いくらかの収入を得ることもできるようになりました。「一部の家庭では、氷の塊を作って一晩貯蔵し、それを売って少しの収入を得ています」とティナの女性は述べました。電力への安定したアクセスによって、新しい現地ビジネスの機会を提供することが期待されており、コミュニティの送電網の拡張と、家庭への接続のための資金調達は、コミュニティの優先事項になっています。

さらに、6つの学校と2つの診療所を送電網に接続し、水へのアクセスを改善しました。「学校の水道が使えないために授業が中止になることはもうありません」とレート・コミュニティ・スクールの教師は述べました。中断の減少とサービスの向上だけがメリットではありません。今では必要に応じて、電動工具を使用して、より迅速で耐久性の高い修理や改善を行うことができます。教師にとっては、授業の準備のためにITツールや機器を利用できるようになったことで、教育の成果が向上しました。別の教師は、「コピーを取って生徒全員に配布できるようになったため、特に学習速度が遅い生徒の学習に役立っています」と述べました。

本プロジェクトは労働市場を開放しました。合計で339人のコミュニティ・メンバーが収入と仕事に関連する技能の研修を受け、求職者データベースが構築され、求職者と潜在的な雇用主を結び付けました。

文化、法律、経済の複雑な相互作用をうまく調整できたことが、このプロジェクトの主な成功要因のひとつです。もうひとつの成功要因は、包括性、参加、コミュニティ・リーダーのエンパワーメントに焦点を当てていることです。これらはともに、大規模なインフラ・プロジェクトに対する総合的なアプローチが、いかにコミュニティと政府に等しく利益をもたらし、国全体を共通の目標に向けて動かすことができるかを証明しています。